

スタンダードチャータードPLC
2009年度業績予想

2009年12月18日

(これは、ロンドンにて2009年12月9日付で配信したものを、日本の皆様に向けて抄訳したものです。)

スタンダードチャータード PLC(その子会社を含む。以下、「当行グループ」または「グループ」と称します)は、2009年度12月期年次会計報告に先立ち、アナリストおよび投資家の皆様を対象として説明会を予定しておりますが、当報告書においては説明事項詳細についてご説明させていただきます所存です。

当行グループ CEO であるピーター・サンズのコメントは、次のとおりです。
「スタンダードチャータードは、本年度も引き続き底堅い収益を計上いたしました。事業展開する市場において持続的な回復を予想するには時期尚早であり、マクロ経済面でも引き続き留意すべき段階にあるとはいえ、景況には改善が見られ、市場は再び成長基調に戻りつつあります。その中で、私どもは、堅実なビジネスモデルを保持し、銀行業の基本原則ともいえる流動性、資本、リスク、コスト管理を軸とした慎重な経営姿勢を貫いてきたことから、景気低迷局面を切り抜け、強いポジションを維持しています。また、私どもの市場が回復するにつれ、そこに生まれるビジネスチャンスをつかえることができる優位な立場にあるといえましょう」

以下、比較数値につきましては、特に明記のない限り、すべて年次ベースで作成されております。

損益勘定

当行グループは、第3四半期中間経営ステートメント(IMS)のガイダンスに沿って、一貫した事業経営を実施してまいりましたが、11月末時点では、営業収益、税引き前利益共に記録的な業績を計上しています。

今回の収益成長は、ホールセールバンキング部門における非常に堅調な業績に牽引されたものですが、一部、コンシューマーバンキング部門での収益減少による影響も見られました。

グループ全体としては、預金利鞘の減少が資産収益を圧迫し、上半期に比べて純金利収入がわずかながら減少しました。

また、引き続き厳しいコスト管理を実施してきたことから、本年度の収益成長率がコスト増加率を上回る予想となっています。

第3四半期IMSにおいて、過去1990年度～2007年度を対象とする課税額算出について英国税関・税務局への協力態勢をとってきたことに関連し、今回限りとなる合計2億米ドルの追加課税額の支払いを予定していると申し上げましたが、実質的な支払金額は、当初の2億米ドルをわずかながら下回ることとなり、同金額は一株当たり利益により調整されることとなります。

財務諸表

ホールセールバンキングおよびコンシューマーバンキング両部門におけるアセットクオリティ(資産の質)は、上半期以降、引き続き改善しています。

当行グループは、本年度上半期と同レベルの預貸率により高い流動性を維持すると共に、今後数年間においては、キャピタルマーケット(資本市場)での資金調達の実必要性は非常に低く、これまでどおり底堅いファンディングの構造を有しています。また、インターバンク取引においても資金放出ポジションを保持しています。

期間収益による資本の増強は着実に進んでおりTier1比率および自己資本比率共に目標レンジを上回っています。

リスク資産については、上半期以降、一ケタ台の増加率に抑えられています。

業況

コンシューマーバンキング部門

コンシューマーバンキング部門では、事業戦略面からさらに顧客本位のビジネスモデルの導入を推し進めてまいりましたが、その効果が広範な分野で数値として表れています。

第3四半期IMSで述べましたように、当部門の収益は回復基調にあります。資産の増加とその収益増は低金利下に於ける預金収益の低下を常に上回っています。また、ウェルスマネジメント事業の収益にも改善が見られます。

商品面では、住宅ローン商品については、取扱量の増加から業績好調となり、利鞘も改善傾向にあります。ウェルスマネジメント事業では、株式ファンドの販売が活発化したことから、手数料収入が上半期を上回る堅調な伸びを示しています。

預金、キャッシュマネジメント中心の中小企業向け事業では、預金利鞘の減少にも関わらず、上半期のそれを上回る収益の増加が見られました。

今後も慎重なコスト管理を心がけると共に、引き続き事業投資も行ってまいります。本年度の費用総額は、昨年度を下回ると予想しています。

同部門におけるクレジットクオリティ(資産の質)は改善傾向にあり、第4四半期の減損額は、第3四半期と概ね同額になると考えられます。

主に韓国・香港・シンガポール等の高いマーケットシェアを持つ地域における担保貸付事業が牽引材料となり、資産は着実に伸びています。また、特に当座・普通預金において、預金残高の増加が見られ、負債の構成は改善傾向にあります。

ホールセールバンキング部門

同部門の業績は、現時点で大変好調に推移しています。引き続き既存顧客層とより親密な関係を構築することで、顧客収益の伸びをさらに押し上げました。

顧客収益は下半期も底固く推移し、現時点で、ホールセールバンキング部門における総収益の約4分の3を占めています。

同部門の要(かなめ)である商業銀行サービス業務およびFX取引の業績は順調に推移しており、その収益は顧客総収入の約50%以上を占めています。

融資・トレードファイナンス事業は、取引量が増加したこと、また収益率が引き続き高かったことから、上半期以降、共に好調な伸びとなりました。キャッシュマネジメントのマンデート(資金運

用委託業務案件)は引き続き好調に獲得しており当該資産は増加を続けています。しかしながら同事業の収益は預金利鞘の減少に伴い上半期よりは下がりました。

コーポレートファイナンス事業の業績も大変好調で、獲得見込案件も十分にあります。

上記IMSで示唆しましたとおり、ボラティリティの減少から同業他社間の競合が高まり、スプレッド(収益となる資金調達金利と運用金利の差)が減少したことで、上半期に見られた堅調な自己収益が落ち込みました。

費用については、業績に連動するボーナスの増加が主なものですが、固定費の伸びを抑えることで、堅調な収益成長を達成することができました。

ホールセールバンキング部門のクレジットクオリティ(資産の質)は良好であり注視が必要であったほとんどの地域で改善方向に向かっていますが、当行グループとしては、引き続きクレジット環境に留意してまいります。最近起こったアラブ首長国連邦地域の破綻危機は、いまだ初期の段階にあり、流動的な局面にあるといえます。しかしながら、当行グループのドバイにおける与信残高を鑑みると、大きな損失が発生する可能性はないと考えています。

上半期以降、同部門においては慎重に資産増加を図っているためリスク資産(RWA)の増加については十分に制御されています。

まとめ

当行グループは、現在、過去最高となった上半期における収利益を土台に、力強い 2009 年度業績達成に向けて実績を積み重ねております。ホールセールバンキング部門では、顧客本位の戦略展開が功を奏し、より親密な顧客関係、事業ネットワークの拡大、広範な商品ラインアップにより好調な業績を計上する一方、コンシューマーバンキング部門では、ビジネスモデルの転換を実施し、業績も上昇傾向にあります。グループの事業基盤(ファンダメンタルズ)は引き続き堅固であり、高い流動性ととともに、保守的な長期資金調達プロファイルにより潤沢な資本力を保持し、手堅いリスク・コスト管理を実施しています。

本年度予想報告に関するカンファレンスコール(録画・グループ財務最高責任者リチャード・メディングス主催)は、当行オフィシャルウェブサイト(<http://investors.standardchartered.com>)で、webcast および podcast にてご覧いただけます。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

Stephen Atkinson, Head of Investor Relations	+44 (0)20 7885 7245
Ashia Razzaq, Investor Relations, Asia	+852 2820 3958
Jon Tracey, Head of Media Relations	+44 (0)20 7885 7163

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性、実現性を保証するものではありません。また、本資料には、予測、目標、見通し、傾向、計画、目標、評価、意見、可能性他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績、計画、目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼できると思われる過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。